

No. 141809004

LIFE SCIENCE REPORT No.88

地域包括ケア時代におけるかかりつけ医の在り方

報告書

2018年11月



国際ライフサイエンス株式会社

INTERNATIONAL LIFE SCIENCE CO.,LTD.

東京本社 〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町1番10号 日証館

TEL 03-3669-4722 FAX 03-3669-4240

<http://www.ilsnet.co.jp>

目次

地域包括ケア時代におけるかかりつけ医の在り方

■ 調査概要	【 1 】
■ まとめ	【 2 】
■ 定性調査 回答一覧		
回答者プロフィール	【 8 】
1. 2018年診療報酬改定のインパクトによる施設の変化と取り組み	【 9 】
2. 先生の施設の取り組みに関連するステークホルダー	【 19 】
3. かかりつけ医として求めているサポートと製薬企業との関わり	【 24 】
■ 定量調査 集計結果		
フェースシート	【 30 】
1. 2018年診療報酬改定を受けた取り組み	【 35 】
2. 患者さんと信頼関係を深めるための取り組み	【 39 】
3. 在宅医療の取り組み状況と今後の意向	【 45 】
4. 関係を強化したいステークホルダー	【 48 】
5. 地域包括ケア時代に変革する中で、かかりつけ医が理想とする医療	【 54 】
6. 製薬企業のMRに求めるサポートや情報提供	【 57 】
■ 定性調査 インタビューガイド・医師提示用資料	【 61 】
■ 定量調査 調査票	【 69 】

I. 調査テーマ

「地域包括ケア時代におけるかかりつけ医の在り方」

II. 調査目的

本調査では、2018年診療報酬改定を経て、地域包括ケア時代の中でかかりつけ医がどのように変化したのかを明らかにし、製薬企業の新たなアクションの可能性を探る

III. 調査項目

1. かかりつけ医の在宅医療の取り組み状況と今後の意向
2. かかりつけ医が病院に選ばれるために強化している活動と今後強化する活動
3. かかりつけ医が連携を強化したいステークホルダー
4. かかりつけ医として変化していく中で製薬企業に求める活動

IV. 調査方法

【定性調査・インタビュー】

調査対象：医師4人

—かかりつけ医（在宅療養支援診療所を届け出ている）：2人

—かかりつけ医（在宅療養支援診療所を届け出していない）：2人

調査時期：2018年9月20日（木）～2018年10月11日（木）

抽出方法：弊社パネルより抽出

調査手法：直接訪問インタビュー

【定量調査・アンケート】

調査対象：医師105人

—かかりつけ医（在宅医療を実施している）：67人

—かかりつけ医（在宅医療をしていない）：38人

調査時期：2018年10月1日（月）～2018年10月18日（木）

抽出方法：弊社DB利用によるランダム抽出

（在宅療養支援診療所届け出施設と未届け出施設の郵送比率を1:1に調整）

調査方法：郵送アンケート